

東京藝術大学基金

2016 年度・2017 年度活動報告書

目次

- 03 目次
- 05 学長挨拶
- 06 藝大基金 2016年度・2017年度 収支報告
- 08 藝大基金 主なプロジェクトの成果
- 14 東京藝大トピック
- 17 藝大基金 講師より 感謝の声

学長挨拶



東京藝術大学は我が国唯一の国立総合芸術大学として、創設以来、世界水準の教育研究活動を展開し、数多くの傑出した芸術家を育成・輩出するとともに、国内外における広範かつ多様な芸術活動や社会実践等を通じて、我が国の芸術文化の継承・発展に寄与してまいりました。

とりわけ、近年においては、芸術系大学で唯一となるスーパーグローバル大学や COI (Center of Innovation) 拠点に選定されるなど、国家戦略を牽引するナショナルセンターとして確固たる地位を構築しています。

また、学生の活躍も顕著であり、例えば、本年9月には、歴史と伝統があり難関なコンクールとして知られている「ミュンヘン国際音楽コンクール」のピアノ三重奏部門において、本学大学院音楽研究科の秋元孝介さん（ピアノ）、伊東裕さん（チェロ）、および同修了生の小川響子さん（ヴァイオリン）で結成されたトリオが第1位に輝きました。

加えて、本年度のカンヌ国際映画祭において、本学大学院映像研究科映画専攻第2期修了生の濱口竜介氏が監督し、同じく映画専攻修了生がメインスタッフとして参加した『寝ても覚めても』が、コンペティション部門に正式出品（ノミネート）されるという快挙を成し遂げました。

さらに、地方創生や震災復興など、社会に対する本学の学生や卒業生の貢献も目覚ましく、福島県磐梯町の国指定史跡「慧日寺（えにちじ）跡」に再建された金堂内に安置する薬師如来坐像は、本学大学院美術研究科の籾内佐斗司教授が中心となり、同研究科の保存修復彫刻研究室が約3年をかけて制作・復元したものです。

本学は、昨年10月に創立130周年を迎え、それを機に、今後10年の歩むべき方向性を全学的に議論し、「東京藝術大学 NEXT 10 Vision」を策定いたしました。

- ・革新的であること — もっと新しい、独創に向けた挑戦を。
- ・多様性があること — もっと幅広い、才能が刺激し合う場を。
- ・国際的であること — もっと世界へ、日本の芸術文化の発信を。

これからの10年、本学は美術、音楽及び映像の芸術諸分野に加え、2016年度に新設された国際芸術創造研究科も含めた、世界にも類を見ない総合芸術大学として、実力や魅力を存分に発揮し、世界で活躍できるトップアーティストの育成を強力に促進し、この3つのビジョンに向かって、力強く進んでまいります。

東京藝術大学学長
澤 和樹

藝大基金 2016～2017 年度収支報告

東京藝術大学基金ご報告

藝大基金 申込総額 14 億 1,929 万 5,486 円

東京藝術大学基金 2016～2017 年度（2016 年 4 月～2018 年 3 月）のご寄附は、皆様からの温かいご支援により、総額 14 億 1,930 万円に達しました。深いご理解とご協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

■2016～2017 年度ご報告

< 収支の状況 >

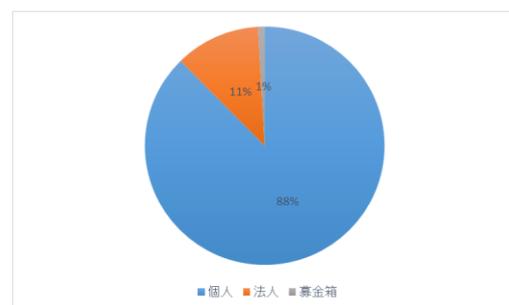
(単位：円)

	収 入	支 出	残 高
東京藝術大学基金	1,369,293,486	123,925,419	1,245,368,067
運用益	8,642,511	0	8,642,511
合計	1,377,935,997	123,925,419	1,254,010,578

< 収入の内訳 >

(単位：円)

区分	件 数	金 額
個人	501 件	1,199,525,650
法人	84 件	157,551,860
募金箱	***	12,215,976

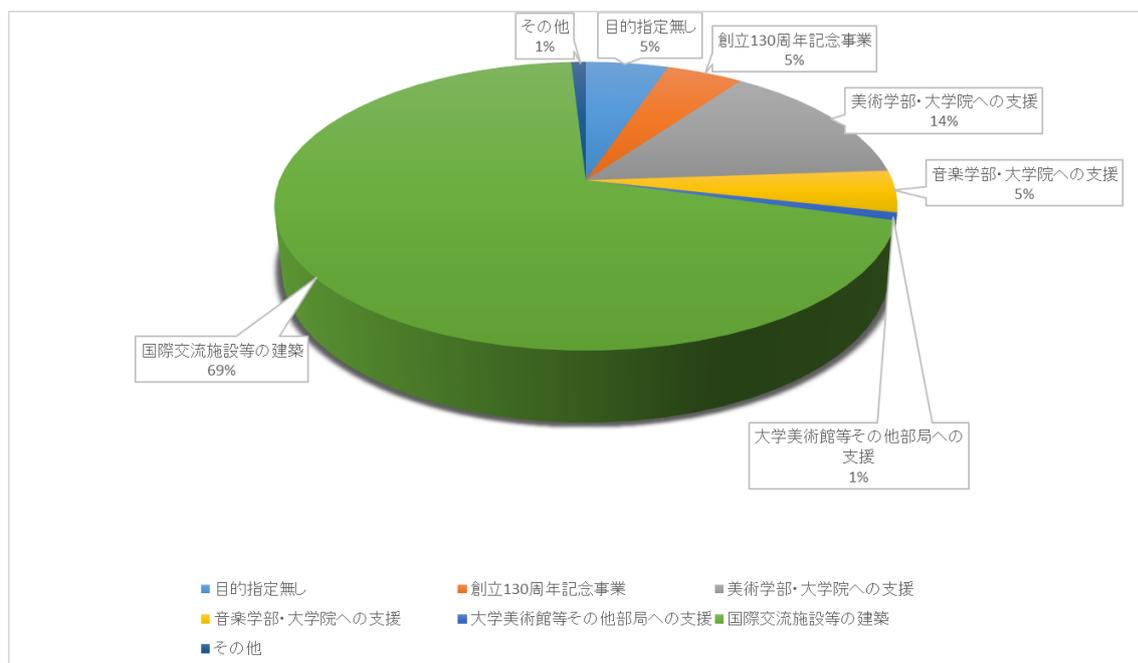


< 称号別の件数 >

称号別件数	金 額	個人	法人
特別荣誉会員	1 億円以上	3	1
荣誉会員	1,000 万円以上	1	4
特別貢献会員	500 万円以上	1	
貢献会員	100 万円以上	22	19
賛助会員	30 万円以上	27	12

< 申込み総額の内訳 >

目的を指定しない 寄附	基金 60,308,939 円	「東京藝術大学基金」のコアとして積立、運用資源として 活用
目的指定の寄附	奨学金 教育・研究支援他 1,358,986,547 円	<p>主なプロジェクト</p> <p>< 創立 130 周年記念事業 > 56,069,566 円 ● GEIDAI 130 ARTS プロジェクト ● 奏楽堂舞台照明等リニューアルプロジェクト</p> <p>< 奨学金等 > 154,492,500 円 ● 海外派遣奨学金制度への支援 ● 平成藝術賞 ● 宗次徳二海外派遣、特待生奨学金 ● 修学支援事業基金 ● 今里隆奨学金 ● 東京藝大ジュニア・アカデミー奨学金</p> <p>< 教育・研究支援 > 1,137,747,988 円 ● 美術学部・大学院への教育研究活動支援 ● 音楽学部・大学院への〃 ● 大学院映像研究科への〃 ● 大学美術館等その他部局への〃 ● 藝術図書館計画 ● 国際交流施設等の建築</p> <p>< その他 > 10,676,493 円 ● 藝心寮に関する支援 ● 活動経費への支援他</p>



設立当初から現在までの寄附申込み総額は 17 億 5600 万円に達しました。
(2018 年 12 月末現在)

藝大基金 主なプロジェクトの成果

創立 130 周年記念事業

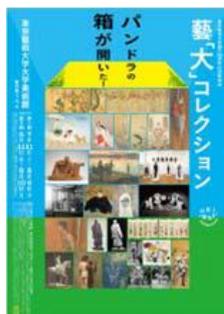
◎2017/6/20～6/30 東京藝大フィルハーモニア管弦楽団・日本チリ国交樹立120周年記念公演

2017年日本・チリ国交樹立120周年を記念し、チリ政府大統領府、サンチャゴ市立劇場、チリ大学、チリ日本人会、チリ商工会議所の呼びかけにより、総勢80名の東京藝大フィルハーモニア管弦楽団による演奏会を開催しました。



◎2017/7/11～8/6、8/11～9/10 藝「大」コレクション パンドラの箱が開いた！

@大学美術館



本展では、多様なテーマを設けて、すでに知られた名品だけでなく、これまで日の目を見ることの少なかった卒業制作などの作品、模写、石膏像や写真・資料類にもスポットをあてることによって、藝大コレクションの豊富さ、多様さ、奥深さをご紹介しました。

総入場者数は36,499名（平均702名/日）。

◎2017/7/30 戦没学生のメッセージ～戦時下の東京音楽学校・東京美術学校

@奏楽堂

本学130周年を機に、今まであまり光が当てられてこなかった戦没学生の作品を中心に、戦時下における芸術活動を演奏会とシンポジウムによって検証しました。本企画へはメディアからの取材も多数あり、TBS「NEWS 23」、NHK「おはよう日本」「首都圏ネットワーク」等で取り上げられる等、大きな反響がありました。



◎2017/9/23～10/26 シルクロード特別企画展「素心伝心 クローン文化財 失われた刻の再生」@大学美術館

バーミヤンからシルクロードを経て、その終着地である奈良法隆寺に至るまでの「壁画の道」をたどる特別企画展。本学の持つ特許技術を駆使し、原寸大に復元した各国の壁画を中心に展示、また、関連する国々の絵画・彫刻作品とあわせて紹介することでシルクロードから奈良に至るまでの壁画や美術の変遷を紹介していきました。本企画展へは、各方面から大きな反響をいただき、総入場者数は10/24時点で累計33,852名（平均1,209名/日）となりました。



◎2017/10/7、8、14、21 藝大茶会「それゆえに」

東京藝術大学の前身である東京美術学校第2代校長 岡倉天心による『茶の本』（1906年）の精神を受けつぎ、日本文化の伝統継承と新しい芸術表現の創造をめざして、茶道各流派家元、京都美術楽部・東京美術倶楽部、本学茶道部による茶会が開催されました。大石膏室におけるインスタレーションの他、陳列館にて教員による創作茶席の展示や演奏会なども開催されました。



◎2017/10/10 130 周年記念式典・祝賀会開催

本学 130 周年記念式典を奏楽堂にて開催。文科大臣祝辞、宮田文化庁長官のご挨拶のほか、東京藝術大学 NEXT 10 Vision の発表、130 周年記念アンバサダーの松井冬子様、葉加瀬太郎様からのご挨拶、オフィシャル・パートナー各社への感謝状贈呈等、華やかな式典となりました。また、式典後の特別演奏では、教員及び学生により編成された特別オーケストラの奏楽が行われました。来場者数は約 400 名。



◎2017/10/28～11/26 皇室の彩（いろどり）百年前の文化プロジェクト@大学 美皇室の彩（いろどり）百年前の文化プロジェクト@大学美術館

本展覧会では、宮内庁に現存する作品とともに、その制作にまつわる作品や資料を紹介し、本学の創立 130 周年を記念して、東京美術学校にゆかりのある皇室に関わる名作の数々も合わせて展示しました。皇室献上後、皇居外で初めて公開される作品を中心に展示し、総入場者数は 66,716 名（平均 2,566 名／日）と盛況となりました。



◎2017/11/10～11/13 「東京藝術大学若手芸術家支援基金」チャリティー・オークション展



今後我が国の文化芸術を担う若手芸術家を支援することを目的として設置する「東京藝術大学若手芸術家支援基金」の活動資金を獲得するため、本チャリティー・オークションを実施しました。東京美術倶楽部協力の下、本学にゆかりのある方々から寄贈いただいた作品 110 点を展覧しました。開催期間中の総入場者数は 810 人、入札者数は 221 人（入札件数 662 件）、落札総額は約 3,700 万円となりました。

◎2017/12/27～2018/1/9 東京藝術大学130周年×三越美術110周年記念 美術学部教員による作品展

創立130周年を迎えた本学と、110周年を迎えた三越美術が、今後もそれぞれの立場で日本の美術界の発展に貢献することを期し、日本橋三越本店美術フロアにて、美術学部の教員約60名の作品を一堂に展示しました。



◎2018/1/8～1/31 ヴィヴァルディ「四季」アニメーションプロジェクト×高島屋



2017年に本学のクラウドファンディング事業として行われた、イタリアの作曲家ヴィヴァルディの「四季」の音楽世界を、アニメーション化する世界初のプロジェクト。本展示では、日本橋高島屋正面口の6つのウィンドウで各季節の映像を上映するとともに、東京公演での「四季」コンサートの様子も流しながら、同時に音楽も楽しめる演出となりました。

◎2018/1/9 五大陸 アーツサミット

七ヶ国八大学(南カルフォルニア大学、コロンビア大学、チリ大学、ベルリン芸術大学、モスクワ大学、メルボルン大学、ヘルワン大学、東京藝術大学)の学長・学部長が一堂に会し、これからの新しい芸術大学の姿と文化交流について、世界的視野から考えるアーツサミットを開催しました。シンポジウムでは、情報化の進む新しい時代における芸術系大学のあり方(担うべき役割と養成すべき人材)や、大学間国際ネットワークの構築によるイノベーションと文化芸術の創造等について意見が交わされました。



◎宗次徳二特待生制度

宗次徳二様（株式会社壺番屋（カレーハウス CoCo 壺番屋）の創業者）から多大なるご寄附をいただき、宗次徳二特待生制度が創設されました。音楽学部（器楽科ピアノ、弦楽、管打楽 各1名）・大学院音楽研究科（声楽専攻1名）の入試成績が優秀な学生に対し、在学中継続し奨学金を給付させていただいております。

<特待生がルトスワフスキ国際チェロコンクールで第1位・最優秀演奏特別賞を受賞>



2018年1月30日～2月10日ポーランドで開催されたルトスワフスキ国際チェロコンクールにて、宗次徳二特待生の佐藤晴真さん（音楽学部器楽科チェロ専攻2年）が第1位に輝き、ルトスワフスキ「グラヴェ」最優秀演奏特別賞を受賞しました。本コンクールは、20年以上の伝統を誇るヨーロッパの代表的なコンクールで、多岐にわたるレパートリーが課題となるため非常に難易度の高いコンクールのひとつと言われております。

◎東京藝大ジュニア・アカデミー奨学金



2017年度春から、東京藝術大学音楽学部は中学生を対象とした東京藝大ジュニア・アカデミーを開校いたしました。講師一同は事務局と共に、毎回希望に目を輝かせて全国から来校する才能豊かな中学生たちと一緒に音楽を考え、彼らの勉強の手助けになるように努めてまいりました。月2回の実技レッスンとソルフェージュ授業を柱に、外国からの優れた先生方のレッスンや夏冬2回の室内楽の集中レッスンがその主な内容です。受講生には奏楽堂などでの演奏の機会を設け、選抜してオーケストラと協演をすることも実現いたします。全国各地から来校するアカデミー生は毎回生き生きとレッスンを受講しております。

◎平成芸術賞奨学金

株式会社平成建設様より、継続的なご寄附のお申込をいただき、平成芸術賞が創設されました。次世代の美術界を担う芸術家及び研究者の人材育成を目的として、美術学部において特に優秀な者（当該選考年度の学部卒業見込者のうち卒業制作・論文が特に優秀な者）を各科（日本画、油画、彫刻、工芸、デザイン、建築、先端芸術表現、芸術学）から各1名選考し奨学金を給付させていただいております。

その他プロジェクト

◎東京藝術大学 AMS (Arts Meet Science) プロジェクトの開始

「芸術」と「科学」を融合し、新たな価値を発見・創造することを目的に「東京藝術大学 AMS (Arts Meet Science) プロジェクト」を開始しています。2017年10月8日の、学術書籍出版社である SpringerNature 社とコラボレーションしたディスカッション・シンポジウムでは、「～芸術はなぜ人の心を動かすのか～「音楽と医学の学問的融合の発展を目指して」」をテーマに、科学、医療、音楽等の専門分野における研究者等により、芸術と他分野との学問的融合への将来的な可能性について議論が行われるなど、多様なアプローチ展開の発信に取り組んでおります。



Nature Café「芸術はなぜ人の心を動かすのか」

芸術を学ぶ学生に対し、自身の専門領域外に関心を寄せることで、芸術家として更に成長できることを発信



ウムでは、「～芸術はなぜ人の心を動かすのか～「音楽と医学の学問的融合の発展を目指して」」をテーマに、科学、医療、音楽等の専門分野における研究者等により、芸術と他分野との学問的融合への将来的な可能性について議論が行われるなど、多様なアプローチ展開の発信に取り組んでおります。

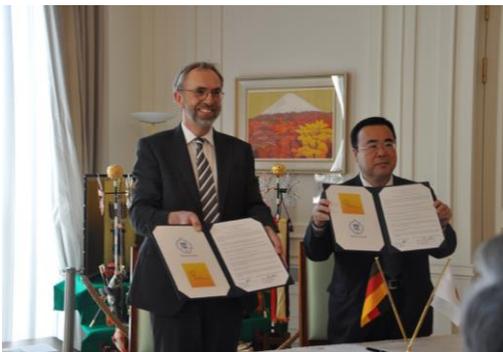
東京藝大トピック

◎海外派遣奨学金

＜ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー派遣一期生が決定＞

2018年4月23日、「ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー」と本学は、音楽分野における世界トップアーティストの戦略的育成を目的として、人材育成に係る協定（特別選抜制度）を在ドイツ日本大使館で締結しました。

「ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー」は、世界最高峰のオーケストラの



一つ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団員の養成を目的とし、1972年にヘルベルト・フォン・カラヤンにより設立されました。同アカデミーと人材育成に係る大学との連携協定は世界初となる試みです。今回の締結により、同アカデミーのヴァイオリン部門に藝大枠が設けられます。試験は毎年行われ、合格者は2年間同アカデミ

ーに留学します。

7月3日、本学にてベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー派遣者オーディションが行われ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターを務める榎本大進氏による厳正な審査の結



果、大学院音楽研究科器楽専攻修士の小川響子さんが合格しました。

本学は2018年4月に同アカデミーと人材育成に係る連携協定を締結し、今年度より同アカデミーのヴァイオリン部門に藝大枠が設けられました。その第一期生として、小川さんは今秋から約2年間、同アカデミーに派遣されます。

◎2018/6月 英国王立音楽院&東京藝術大学交流演奏会（英国公演、日本公演）



6月中旬、20年来の交流協定関係にある本学と英国王立音楽院の学生による合同オーケストラ交流演奏会が英国と日本において開催されました。（21日ロンドン 英国王立音楽院デュークス・ホール、22日オックスフォード シェルドニアン劇場、26日福島県郡山市けんしん郡山文化センター中ホール、27日東京藝術大学奏楽堂）両校は1998年に交流協定を結び、2015（平成27）年に共同事業を拡充する協定をあらたに締結しました。以来、親密な活動を続け、その活動の結実ともいえるべきプロジェクトとして今回の学生合同オーケストラ交流演奏会が実現しました。

◎2018/7/30 保存修復彫刻研究室による慧日寺・薬師如来坐像の復元が完成

2015年より慧日寺（福島県磐梯町）の周丈六薬師如来坐像の復元制作に協力し、大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室（藪内佐斗司教授）が中心となって制作を続けてきました。そして7月30日に完成披露式が行われました。

この復元プロジェクトは、自治体による積極的な文化財の保護・活用と、地元拠点を置く企業による理解とサポート、さらに本学がこれまで培ってきた技術や知見が揃うことによって実現しました。

3年間にわたる制作においては、3DCGや模型等を用いて大きさや造形の検討が重ねられ、木彫、漆工、彩色、古色付け等、数々の工程を経てこのたび完成を迎えました。



◎2018/9/5 国際芸術リソースセンター（IRCA）竣工・附属図書館リニューアル

オープン記念式典を開催

東京藝術大学国際芸術リソースセンター（IRCA：International Resource Center of the Arts）竣工・附属図書館リニューアルオープン記念式典を9月5日に開催しました。式典は、元文部科学大臣政務官上野通子参議院議員、前東京藝術大学長で上野「文化の杜」新構想推進会議のメンバーでもある宮田亮平文化庁長官、文部科学省大臣官房文教施設企画部平井明成部長、遠山敦子元文部科学大臣（本学経営協議会委員）などの来賓を迎えました。



施設は、念願だった図書館改築・耐震改修

が措置され、国際芸術リソースセンターには附属図書館のみならず、大学美術館、大学院美術研究科の一部が入居し、その名称に相応い、東京藝大が持つ、過去、現在、未来の芸術資源の保存や活用、そして世界に向けての発信を行います。また、新設された「ラーニングコモンズ」は、ミニコンサートや壁も利用したミニ展示、ワークショップなどの一時的なイベントにも対応できる、藝大ならではのスペースであり、図書館の基本性能も補強され、A棟・B棟合わせて収容能力が従来の1.6倍に増えたこと、学生からの要望が多かった開架率は、19%（7万冊）から50%（18万冊）へとアップします。

◎2018/10/2 藝大アートプラザ開店 及び オープニングセレモニーを開催

新しい「藝大アートプラザ」のオープニングセレモニーを10月2日に開催いたしました。オープニングセレモニーは、報道関係者をはじめ、本学及び株式会社小学館の役職員など総勢150名が参列するなか、藝大アートプラザのCM・ポスターで着用された小学1年生の制服で、澤和樹学長、日比野克彦美術学部長、相賀昌宏株式会社小学館代表取締役社長の登壇から華やかに開式しました。新しい「藝大アートプラザ」は、本学の教育研究成果を国内外へ幅広く発信するため、また、才能ある学生や卒業生に活躍の場を提供し、更に社会との接点をもっと持つために、小学館とのコラボレーションの下、「藝大の玄関口」として、「芸術」を通して大学と一般の方、企業と自治体等を橋渡しするコミュニティ交流ゾーンとして効果的に活用してまいります。



◎2018/9月 ミュンヘン国際音楽コンクールで日本人初の快挙達成！

2018年9月9日～9月15日の間、ドイツ・ミュンヘンで行われたドイツ公共放送連盟（ARD）主催の第67回「ミュンヘン国際音楽コンクール」ピアノ三重奏部門にて、本学



大学院音楽研究科の秋元孝介さん（ピアノ。博士後期課程在籍）、伊東裕さん（チェロ。修士課程在籍）、および大学院音楽研究科修了生の小川響子さん（ヴァイオリン。2018年3月修士課程修了）で結成される「葵トリオ」が第1位に輝きました。本部門での日本人入賞は初めてのことです。

ミュンヘン国際音楽コンクールは1952年に第1回が開催され、以後世界の権威ある国際コンクールの中でも、歴史と伝統のある難関なコンクールとして知られており、ピアノ部門においては1979年に本学音楽学部渡辺健二教授がピアノ部門で第3位入賞、1983年に澤和樹学長がヴァイオリン＝ピアノ二重奏部門で第3位入賞、伊藤恵教授がピアノ部門で第1位優勝しております。

◎2018/10/12 カンヌ国際映画祭正式出品記念上映会 @奏楽堂

フランス・第71回カンヌ国際映画祭にて、本学大学院映像研究科メディア映像専攻佐藤



藤雅彦教授と修了生が制作した短編映画『どちらを選んだのかは分からないが、どちらかを選んだことははっきりしている（英語名「Dualité」）』（14分）が、短編コンペティション部門で正式出品（ノミネート）され、記念して特別上映会を開催。今年の総応募数は、3,943本で、正式出品（ノミネート）は8本、約500倍の狭き門を通過した快挙です。

カンヌ国際映画祭 正式出品記念上映会

短編映画「八方圓」 短編映画「女 抱る」
短編映画「どちらを選んだのかは分からないが、どちらかを選んだことははっきりしている」

監督
e-pojeyal 全編演出 / 関本友実 / 豊田真之 / 平瀬謙太郎
上映
2018.10.12 [水] 18:00 | 開演 18:30 | 東京藝術大学 奏楽堂 (4階ホール)

主催 東京藝術大学

共催 映像研究科 映像専攻

当日は予定していた席がほぼ満席となるほどの来場者で、澤学長の挨拶で始まり、上映後は佐藤教授と2名の修了生（豊田真之、平瀬謙太郎）が登壇し、桂映像研究科教授を聞き手としたアフタートークが行われました。



た。

藝大基金 講師より感謝の声

邦楽絵巻「和楽の美 源平の盛衰～有為転変の賦～」公演を終えて(2017.11.15)

2017年9月14日東京藝術大学奏楽堂にて、東京藝術大学音楽学部邦楽科による邦楽絵巻「和楽の美 源平の盛衰～有為転変の賦～」を開催いたしました。

今回の公演は、一昨年の「ヒミコ」を「序」として始めた2020年の「東京オリンピック&パラリンピック」に向け、世界の平和と芸術をテーマに、5年をかけて日本音楽の歴史を辿っていく企画の第三弾となる作品でした。今回は平安時代の「源氏と平家」に焦点をあてた。邦楽が得意とする時代の一つである平安時代の、前半の平家を「俊寛」、後半は源氏を「義経」を主人公に描きました。この二人の人物を、特別ゲストの中村梅雀が朗読で演じ、雅楽・能・箏曲・尺八・長唄・日本舞踊が、ただ結集するだけではなく、混ざり合うことによって生じる表現によって、新しい舞台を創造しました。長唄三味線（小島直文）、長唄（味見純）、山田流箏曲（萩岡松韻）、生田流箏曲（深海さとみ）、能楽の観世流（関根知孝）・宝生流（武田孝史）、日本舞踊・演出（花柳輔太郎）、邦楽囃子（盧慶順）、尺八、雅楽、そして義太夫の人間国宝である竹本駒之助と、第一線で活躍する邦楽の各ジャンルの実演家によって一つの時代が表現された。舞台は美術学部絵画科准教授の三井田盛一郎が手掛け、一部は映像、二部では自らのライブペインティングによって、フィナーレに素晴らしい普賢菩薩が現れるという、大変印象的な公演となりました。

多くの方々にご来場いただきましたことはとても嬉しく、昨年に引き続き寄附金をいただき、「挑戦」ともいうべきこの公演を好評のうちに終えることができ、とても感謝しております。関係者一同厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

東京藝術大学音楽学部邦楽科一同



2018年12月

東京藝術大学基金事務局

東京藝術大学 社会連携課 渉外企画係

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

TEL : 050-5525-2400 FAX : 03-5675-7760

email : development@ml.geidai.ac.jp

URL <http://fund.geidai.ac.jp>